

NPO
法人

日本高山植物保護協会 JAFPA

2025.7.1 No.102

- 医学と植物学の両立する環境を守る
- 三ツ峠における鹿の増大と温暖化による植生への悪循環の現状
- シダ植物はじめての一步
- 信州大学志賀自然教育園での観察会
- 令和7年度通常総会開催報告
- 本部活動計画・支部活動計画
- フォトコーナー
- 高山植物一口メモ



ガムラ・ウプサラ(スウェーデン ウプサラ市)
(写真提供: 鈴木 慎太郎)

医学と植物学の両立する環境を守る

理事 鈴木慎太郎

令和7年(2025年)4月1日より昭和大学は昭和医科大学となりました。実は昭和39年(1964年)まで昭和医科大学の名称でしたので、60年の時を経て再び由緒ある校名に戻り、令和10年(2028年)には創立100周年を迎えます。

本学には白馬診療所(長野県)と北岳診療所(山梨県)の2つの山岳診療所があります。私は医学部1年生の頃より北岳診療部やワンダーフォーゲル部といった活動を通じて、高地の自然環境保全にも興味を持ち、木内支部長に誘われJAFPAに入会しました。現在は医学部医学教育学講座准教授で、JAFPA昭和医科大学北岳支部の事務局として、木内支部長とともに北岳診療所における医療ボランティア活動を通じて登山者の健康や安全の確保に務めております。

私が好きな高山植物は小さくて目立たないものの、薄桃色のランプの幌のような花冠を垂れ下げた姿が可愛いリンネソウです。名前の由来のカルル・フォン・リンネは当初、医学の道を志したのですが、先輩の医師に教わった植物学に魅了され、スウェーデンのウプサラ大学で医学部の教授と植物園の園長を兼任しました。

私は2015年~2017年に北欧・スウェーデン王国

に留学していました。自然と共存した都市づくりを推進するスウェーデンには植物園 Botaniska が多く存在し、私が滞在していた第二の都市イエテボリにも町のはずれに Göteborgs botaniska trädgård (英語では Gothenburg Botanical Garden) があり、何度も訪れました。滞在中に学会に参加するために出かけたスウェーデンの古都ウプサラでは、創立1477年の伝統あるウプサラ大学とその歴史博物館を訪問しました。リンネの著作である「植物学論 (Philosophia Botanica, 1751年)」などが展示されています。写真はガムラ・ウプサラと呼ばれる古墳群です。

現代においても、スウェーデンは世界に名だたる環境保全やサステナビリティの大国です。リンネを生んだ北欧の過酷な環境は寒く、日も短いため人にとっては最適な生活環境とは言えませんが、植物達には自然の“保管庫”として恵まれた場所なのかもしれません。人と草花、医学と植物学、文化と自然、いずれも一見すると各々が関係の乏しそうな組み合わせですが、日本においてもスウェーデンのように上記が両立する環境を守っていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



■ 設立 35 周年記念シンポジウム：活動事例報告 ■ 「三ツ峠における鹿の増大と 温暖化による植生への悪循環の現状」

専務理事・本部長 中村光吉

三ツ峠に自生するラン科植物
アツモリソウとカモメランなど



山野草ブームの時代には異常な値段で取引され多くの盗掘を引き起こした。アツモリソウなどの希少な植物が盗掘で失われたことにより植生のバランスが崩れ、テンニンソウの大群落が出現した。



三ツ峠ネットワークによる保護活動：ササやテンニンソウの抜き取り作業や防鹿柵の設置作業



防鹿柵の内外での違い、柵外に生息する鹿の群れ



防鹿柵内は植生が回復し、オオバギボウシの群落や、アヤメ、レンゲショウマ、シモツケソウ、カイフウロ、トウヒレン、コオニユリなどが咲く。



柵外はマルバダケブキ、バイケイソウ、ヤマトリカブトなど有毒の植物だけが残る。



2021 年秋頃から、既存の柵を鹿が飛び越え侵入し始めた。オオバギボウシが食害、踏み荒らした跡もある。



防鹿柵の嵩上げを実施、助走できないよう山側の柵周りに有刺鉄線でバリケードを作った。



2022 年秋の防鹿柵設置後～ 2023 年春・夏にかけてササ刈りを続けた。2024 年 8 月にはササ以外の植物が増え多様な植生に戻りつつある。タムラソウ、ノアザミ、ツリガネニンジン、コウリンカ、コウゾリナ、イカリソウ、ワレモコウなどが増えた。



【現在の問題】

- * 温暖化により日当たりの良い場所はイネ科が圧倒的に増え始めていることと、夏の異常な暑さや冬の暖かさがアツモリソウ生育に悪影響を生じている。
- ササ刈りを続け、刈った場所にアツモリソウと相性の良いオオバギボウシの種子を蒔き天然の日よけができるようにする。
- * 鹿が山中を駆け回ることと、台風や豪雨が相まって斜面の崩壊や土砂の流出が著しいが、山頂周辺は登山者が多く、猟友会が猟を避け鹿が減らない。
- 認定鳥獣捕獲等事業者に駆除の依頼・スリングショットによる追い払いが必要である。
- * ナラ枯れが山全体で多く見られるようになった。



昭和医科大学北岳支部講演会開催報告

シダ植物はじめての一步

～知られざるシダ植物の魅力について～

昭和医科大学北岳支部長 木内祐二

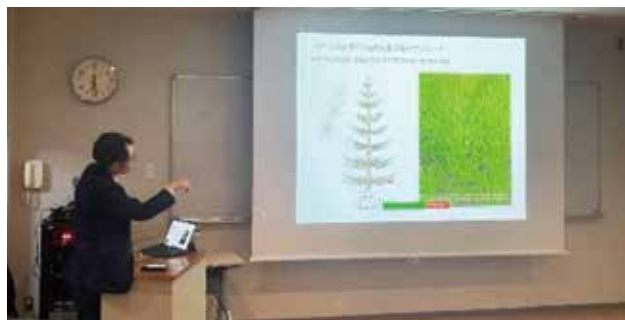
令和7年3月14日（金）に開催された講演会でご講演いただいた昭和医科大学富士山麓自然・生物研究所講師の藤原泰央先生は、シダ植物の交雑や倍数体化に着目した研究をされていて、近年は東南アジアのシダ植物の分類や、コケ・シダ植物のゲノム進化について研究されています。



藤原泰央先生

今回のご講演では、「シダ植物とは何か？」という基本なお話から始まり、花を持たずに胞子で繁殖する独特なライフサイクルや、シダ植物が弱光環境で生存するために必須であった“ネオクロム”という光受容体の話、さらには配偶体のみで生きる珍しい種類まで、シダ植物の不思議な魅力をたっぷりと紹介していただきました。

また、講演後半では北岳に生息する希少なシダ植物も写真とともに紹介され、キタダケデンダやヒイラギデンダ、アオチャセンシダなど、北岳ならではの植物多様性の奥深さが感じられました。特に北岳の名を冠するキタダケデンダは日本国内で北岳を含む限られた場所でしか確認されていない貴重な存在であり、高山帯という過酷な環境に適した姿から山の生態系の奥深さを感じました。この講演を通して、普段あまり注目されないシダ植物の世界に触れることができ、植物の進化や適



昭和医科大学旗の台校舎にて



キタダケデンダ(写真提供：猪俣健之介氏)



アオチャセンシダ

応の不思議に感動しました。今後、登山や自然観察の際には、足元にひっそりと広がるシダの魅力にも目を向けてみたいと思います。

信州大学志賀自然教育園での観察会

本部事務局：山本義人

この園地は、約5万年前の志賀山の最後の噴火によってできた渦巻状溶岩流に覆われた標高1600～1700mほどの台地に、オオシラビソやコメツガ、クロベといった針葉樹とミズナラやダケカンバなどの夏緑樹がまじる苔むした亜高山帯針葉樹原生林で、ミズバショウやイワカガミ、シャクナゲの群落などが見られます。

昨年8月10日の観察会では、ツルリンドウやエゾスズラン、アリドオシラン、ヒメミヤマウズラ、コイチヨウランが咲いていて、タケシマラン、ウスノキ、ハリガネカズラなどの果実や、岩陰にはヒカリゴケを見ることができました。

花の時期から果実の時期まで楽しむことができ、また近くには湖沼も多く、亜高山帯の植生や生態系の観察地として楽しめる場所でした。



アリドオシラン



ヒメミヤマウズラ



令和 7 年度通常総会開催報告

事務局長 山本義人

5月24日（土）沼田市保健福祉センター会議室を利用して、第37回通常総会を開催し、無事終了しました。4月27日理事会開催翌日の通常総会開催案内会員数364名に対し、開催当日の会場への出席者7名と委任状、書面表決状、メール承認による242名との合わせて249名による過半数の出席者により、議案は承認されました。

通常総会終了後は玉原高原に移動して、メール承認で済ませた観察会への参加者2名を加えた9名で、昨年のシンポジウムに参加して今年度入会してくれた「利根沼田自然を愛する会」の副会長と幹事のお二人の案内で観察会を開催しました。

センターハウス駐車場から少し歩くと野鳥案内板があり、そこから探鳥路を登って平坦なブナ平のブナ林を観察し、分岐から水源ルートで湿原へと下り、木道を歩いて湿原での観察を行い、湿原入口にある「利根沼田自然を愛する会」が活動拠点にしている自然環境センターで交流時間を持つことができました。



ブナ平にて

玉原湿原にて

観察路にはオオカメノキ、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ、オオバクロモジ、ムラサキヤシオ、タムシバといった木々の花や、足下にはオオタツボスミレ、ツボスミレ、ミヤマスミレ、ネコノメソウなどの雪解けを待って咲く花が咲いていま



オオカメノキ

ウリハダカエデ



オオバクロモジ

ムラサキヤシオ

「利根沼田自然を愛する会」の紹介

facebook 掲載記事より

関東でも有数のブナの森である玉原高原を『森の博物館 玉原』と称して「知る」「守る」「伝える」活動をしています。森を知り尽くした”楽迎員”が案内する観察会を毎月開催しています。

今年最初の月例観察会が5月11日（日）に開催され、時雨模様で風も強くウィンドブレーカーやダウンを着こんでの観察会になりましたが、総勢75名の参加者があり、大盛況だったようです。



した。

県立自然史博物館によって、動物たちの様子を見るためのセンサーカメラが13か所に仕掛けられていて、5月24日はカメラのバッテリー交換とデータ収集のサポート活動に出会いました。

◆日光戦場ヶ原と日光植物園の観察報告

通常総会に参加した会員有志5名は玉原高原のペンションに泊まり、翌日曜日に日光戦場ヶ原の散策と日光植物園の見学を行いました。

夜中降り続いた雨も朝方には上がり、街道沿いにはウワミズザクラやハリエンジュ、フジの花が咲いていて、戦場ヶ原ではズミが咲き始め、ミヤマウグイスカグラがたくさん咲いていて、クロミノウグイスカグラやメギの花が見頃でした。

玉原高原でもシカの食害が深刻化してきており、戦場ヶ原でもシカ食害の痕跡が目立ちました。



ズミ

ミヤマウグイスカグラ



クロミノウグイスカグラ

メギ



本部活動計画(観察会予定)

事務局長 山本義人

●6月19日(木)：玉原高原観察会

「利根沼田自然を愛する会」との交流を兼ねて、玉原湿原とブナ林にかけて観察します。

ツリバナの仲間やタニウツギ、ケナシヤブデマリ、サワフタギ、ウラジロヨウラク、コバイケイソウ、ヒオウギアヤメ、ハクサンタイゲキなど初夏の亜高山帯の花が咲いています。

●7月9日(水)及び7月31日(木)：木曽駒ヶ岳観察会

「中央アルプス雷鳥サポーターズクラブ」との交流を兼ねて、千畳敷カールと稜線にかけて観察します。

ライチョウは雪さえ融ければ、一年中稜線にあるガンコウラン、コケモモ、ミネズオウなどの矮性常緑低木を一年を通して食し、他の高山植物も幅広く何でも食べるようです。高山植物が一齐に花開く6月下旬から7月末まではいろんな花を食べますが、ハクサンイチゲ、チョウノスケソウ、イワツメクサなどを好んでいるようで、運が良ければそれらの花を啄む雷鳥の親子が見れるそうです。しかし、近年は天候不順やシカの食害などで高山植物の衰退が危機状態にあります。

中央アルプス固有種のヒメウスユキソウ(コマウスユキソウ)は7月初旬から8月中旬、コケコゴメグサは8月上旬から下旬が花期のようです。



コケコゴメグサ

ヒメウスユキソウ

●7月10日(木)：柵池自然園観察会

みずばしょう湿原、わたすげ湿原、浮島湿原、展望湿原を周遊して高山植物を観察します。

●7月21日(月)：富士山お中道観察会

奥庭と御庭からお中道にかけて観察します。

ハクサンシャクナゲ群落や、コケモモ・ツマトリソウ・フジハタザオ・ミヤマハンショウヅル・イチヤクソウ類などを観察します。

●8月17日(日)：南大菩薩観察会

大峠から白谷ノ丸・大蔵高丸にかけて観察します。

支部活動計画

◆関西支部

支部長 小谷哲朗

今年度も観察山行、環境学習会を実施する予定ですが、大阪・関西万博が開催されている関係でバスの確保が困難になっており、行事日程等について調整して実施できるように検討中です。

◆静岡支部

支部長 鵜飼一博

今年度の活動計画をお知らせします。

●南アルプス高山植物群落の保全活動に協力

環境省及び静岡県が、三伏峠、荒川岳、聖平、茶臼岳等に設置している防鹿柵の維持管理作業(7～10月)に参加します。

●アカイシリンドウ、サンプクリンドウ等の観察会を開催(検討中)

●ホテアツモリの生育状況を調査

◆昭和医科大学北岳支部

支部長 木内祐二

今年度も昨年同様の活動を計画しています。

①北岳診療所夏山活動期間(7月後半～8月中旬)の高山植物保護活動

●白根御池小屋、肩の小屋、北岳山荘に、高山植物保護を訴えるポスター(第14回日本高山植物保護協会昭和医科大学北岳支部ポスターコンテストの入賞作品)を貼付します。

●北岳山荘を中心に高山植物の観察と保護パトロール、絶滅危惧種キタダケキンポウゲ、タカネマンテマに加え、シコタンソウ、キンロバイ、ウラジロキンバイ、イワギキョウ、チシマギキョウ、ベンケイソウ、ハクサンイチゲなどの代表的な高山植物を観察します

●北岳登山道のゴミ拾い

②高山植物保護活動に関する学習

2026年3月に開催予定(講演者未定)

③広報、啓蒙活動

昭和医科大学内の部活動や高山植物保護サークル等で日本高山植物保護協会の会報等を広く配布し、入会を呼びかけます。

— フォトコーナ — 本州中部の高山性のツツジ科植物

写真提供：山本義人



ツガザクラ



アオノツガザクラ



コメバツガザクラ



ジムカデ



イワヒゲ



ウラシマツツジ



ミネズオウ



ガンコウラン雄花



ガンコウラン雌花

●高山植物一口メモ リンネソウ スイカズラ科

リンネソウ属に分類される常緑小低木で、1 属 1 種、学名は分類学の基礎を築いたカール・フォン・リンネの名前に由来する。和名もまたそれにちなんでいるが、茎が二股に分かれて花をつけることから「メオトバナ（夫婦花）」とも呼ばれている。

ヨーロッパ、北アメリカ、東アジアなどの北半球の亜寒帯に分布する周北極植物で、日本では北海道から中部地方以北に分布し、高山帯から亜高山帯にかけての針葉樹林下に生育する。花期は 7～8 月で、薄い桃色の鐘状の花冠を下向きにつける。果実には腺毛が密生する。

田中澄江著「花の百名山」では御嶽山、「新・花の百名山」では白馬岳を代表する花のひとつとして紹介されている。

(文・写真：山本義人)



令和 7 年 7 月 1 日発行

特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会

住所：〒401-0304

山梨県南都留郡富士河口湖町河口 1672

電話：055-251-6180

携帯：070-1387-5274

E-mail アドレス：info@npo-jafpa.or.jp

HP アドレス：https://npo-jafpa.or.jp

